令和８年度事業計画

しまもと里山認定こども園

【基本方針】

園づくり期間の基礎形成となる第１期を終え、令和８年度は第２期１年目となります。また、令和９年度磐手保育所民営化移管を想定した法人内人事異動があり、当園も管理職クラス職員を迎え、新体制での運営が始まります。

今まで基礎形成を目指して取り組んできた“育児担当制保育・異年齢混合保育”を主軸に、今一度“一人ひとりを大切にした丁寧な保育”や”コーナー保育・年齢別活動・グループ保育“について立ち止まって考え、対話し、職員が同じ想いのもとで着実に定着させていきます。

職員間のチーム力については、一昨年度から『思いやり』をテーマに行動指針を四段階に明記してすすめてきましたが、チーム形成については課題が残っています。当園は様々な経験や年齢層の職員がいる現状があり、その中で指導的立場にいる職員は“指導”という考え方を見直し、“寄り添い、一緒に考え、やってみる”という姿勢を徹底し、初期の段階で定着させます。令和８年度は『思いやりを形に』をテーマに、一人ひとりが各役職や配置に応じた役割を理解したうえで実践することで、チーム力を高めていきます。そのためにも、各役職の役割や意味を分かりやすく明記し、一人ひとりが“自分事”として捉えて実践できるようにしていきます。

ここ数年、島本町内には続々と新興住宅やマンションが建設され、町外からの転入者が増えており、想定通り入園希望者が増えています。令和８年度は受け入れを最大２５０人程度まで増員し、待機児童対策へも取り組みます。受け入れ定員を増員しても子どもたちが安心安全に過ごせるよう、現在の砂利駐車場上に保育室の建設工事を開始し、令和８年夏ごろに完成予定です。

【幼児保育】

昨年度の成果をもとに、令和８年度も４・５月は少人数（22～23 名）でのグループを心理的安全基地として定着させる期間とし、子どもたちと保育教諭との信頼関係を構築していきます。６ 月以降は幼児全体でのコーナー保育を展開し、一人ひとりがあそびを選択し、とことんあそびきれる環境を整えていきます。また、幼児担任経験を積んできた若手職員が、より自己を発揮し、グループおよびコーナーで主導していけるよう、管理職員層が『やってみる・任せてみる』を意識しながら支えていきます。そして、開園当初から取り組んできたコーナー保育をはじめ、年齢別活動やグループ保育について今一度立ち止まって考え、職員間で対話し、魅力やねらいなどを、既存職員とも新入職員とも共通認識したうえで保育を実施していけるようにします。

【乳児保育】

乳児期の生活を基盤に日々の保育を過ごしている中で、「もっと〇〇したい」「こんな遊びを提供したい」という声が出てくるようになりました。日々の安定した生活を担保しながらも、どうすればより魅力的な保育環境を整えられるのかを、乳児担任が一丸となって対話し、考え、実施していきます。（ここで言う“対話”とは、行為の統一方法ではなく、ねらいや意図を共有することを目的とします。）その姿勢をベースに、疑問や困りごとなどを共有し、お互いを認め合いながら共通認識を持って、乳児保育を実施していきます。マニュアルを大切にしながらも、本来の意図や意味、ねらいについて考え、その都度臨機応変に対応しながら、必要に応じてマニュアルの見直しも行います。

【地域事業】

毎日の園庭開放・子育て講座・里山広場・子ども食堂を継続してきたことで、島本町内での認識が広がっていることを実感しています。島本町への子育て世帯の転入が多いため、そういった地域住民が安心して子どもと遊べ、困ったときには相談できる環境を提供していき、住みやすいまちづくりを目指します。こどもの居場所“もざいく”では、町内外から利用希望者の問い合わせがあり、需要の高さを実感しているところです。現在在籍している子どもが安心できる環境を担保しつつ、今後の受け入れについて検討していきます。おやこのはじまり“はぐ”についても、全体での利用者数は少ないものの、コンスタントに利用希望者がいるため、職員間で連携しながら受け入れ体制を整えていきます。